



○幞 後周武帝ははかり  
 の巾の唐の巾の巾を  
 幅巾と裁て曰脚と出を  
 ○綾 唐の方草とあり小物多  
 冠の細かり領の下に香を  
 ○巾 領巾ありその割を  
 方草とあり紙巾とあり  
 かんを帽と云ともあり  
 ○帽 領衣より唐に上  
 官より下官にわたりても  
 帽と云冠の下に香物あり  
 ○帽 僧の冠あり佛會  
 法事のときとありあり  
 ○笏 笏板あり天子の玉  
 諸侯象牙を天子眞須文  
 竹を本を笏文とありて  
 用白官人のひふりおかり  
 てゆかりたおのほほの上  
 右の五位に上これと  
 侍臣の糸の縞は  
 位已下の紙の縞と結ぶ  
 ○裳 天のの衣裳あり  
 一に袴二ふ山三に花四に  
 火五ふ虎の衣五に六に  
 藻七に羽八に繡九に  
 の裳小ありあまに九章  
 の所衣の  
 ○裳 衣の上と衣とふ下衣  
 粉采繡散あり九章の心  
 かんを天の衣の裳あり  
 ○佩 官人の腰にあがり  
 かり上ふ双衛かり衛は  
 さ五寸ひろさすりふ双珠  
 かり珠のさすり三寸也瓊



珠とこの向ふかきい  
 ○帯の字のりくち丸玉と  
 けりくちのりくち丸玉と  
 わり下帯五掛帯あり  
 ○袍の字のりくち丸玉と  
 今朝廷仕のりくち丸玉と  
 服を袍と云ふは丸玉と云  
 りて丸玉と云ふは丸玉と云  
 りて丸玉と云ふは丸玉と云  
 ○衫の小福方と云ふは丸玉と  
 袖端のりくち丸玉と云ふは丸玉と云  
 類かかへる服の下着あり  
 ○袴と股衣あり又は  
 袴あり裳袴あり俗に  
 上下とも入と云ふは袴と云ふ  
 と袴と云ふ

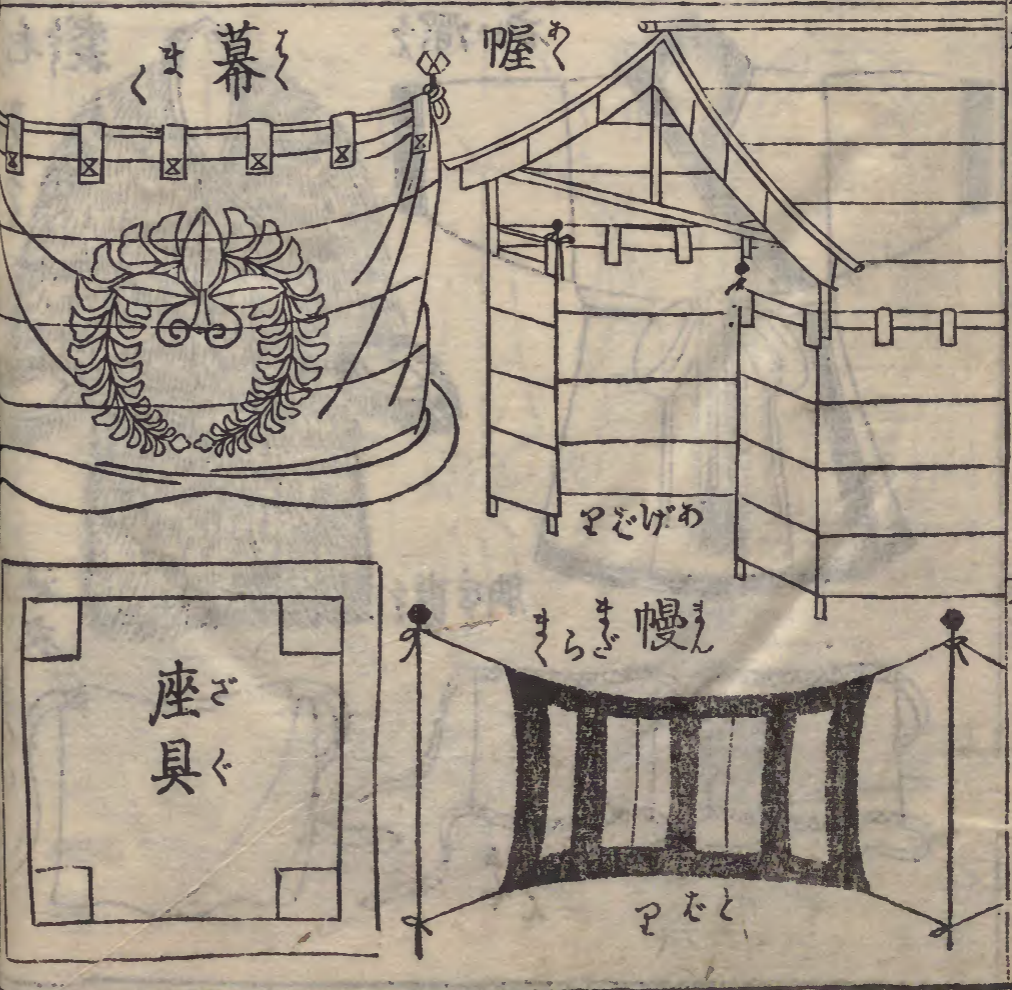
○裾の夜着のりくち丸玉と云ふは丸玉と云  
 のりくち丸玉と云ふは丸玉と云  
 〇裾の婦人のりくち丸玉と云ふは丸玉と云  
 方を着にけりくち丸玉と云ふは丸玉と云  
 もわく裾のりくち丸玉と云ふは丸玉と云  
 りのりくち丸玉と云ふは丸玉と云  
 ○半臂の樂人々徒衣裳  
 けりくち丸玉と云ふは丸玉と云  
 のりくち丸玉と云ふは丸玉と云  
 〇奴袴のりくち丸玉と云ふは丸玉と云  
 袴中けりくち丸玉と云ふは丸玉と云  
 けりくち丸玉と云ふは丸玉と云







かんを物見多れと幄といふ  
 周のせうりふらふままなり  
 ○幕の周のせうりふらふま  
 りて幅は物をかんあか  
 幕といふ布十二張と三張と  
 して十二月とあし乳敷元  
 八と元八布と表と  
 ○幄十二幅紋とあし乳敷  
 幅をうりあし上のよこ罫  
 たり下ののひまがし襷  
 額ふし乳敷又のひまが  
 かんふもさうあり  
 ○衣具の備衣より佛と乳  
 鉢を具渡水囊これと備  
 の六物といふ  
 ○縁道箱の法事のよき容  
 ともあはれ水とせうりふら  
 ○夾衣今今あわせ衣と袂  
 袷といふ単衣のひまがし  
 紫衣といふよき表裏と  
 ○帳の女のひまがしあし乳  
 帷帳より又蚊帳帳帳綿  
 帳紙帳あり  
 ○褥のよきひまがし  
 蓐道は蓐蓐蓐の草のよ  
 といふひまがし  
 俗に蓐蓐といふ非なり  
 蓐蓐の蓐蓐の類なり  
 ○降緒のひまがし  
 平緒といふ  
 ○雨衣のひまがし  
 襖といふ紙あしつらと油  
 衣といふ毛織の類といふ  
 と粘衣といふ呉朝の



百五十五  
 百五十六  
 百五十七  
 百五十八  
 百五十九  
 百六十

粘衣あり  
 ○浴衣ゆきびかりの  
 衣もあかり又ゆての  
 と浴巾あり  
 ○蔽膝ひきかきを  
 まんたきき同  
 ○鞋の糸鞋麻鞋の草鞋  
 の履も麻もま  
 ○履の本履なり俗ま  
 だといふふも履系も  
 又鼻繩といふ揮といふ  
 あり香中にくわあり  
 ○裏底わりの覆といふ底  
 力きて裏糸といふふ  
 ろかり袋衣  
 ○道服の道者の衣服あり  
 胸服といふわ俗

頭書増補訓蒙圖彙卷之七

寶貨

此部小の金銀珠玉銅鉄石甲錦  
 鋪綾羅とてさいの寶とわつひ

○金の紫磨黄金沙金  
 どわり目にてい  
 奥なりゆり鍍金あり  
 ○銀の白銀かり南銀  
 銀あり俗よふた  
 又銀あり俗よふた  
 ○銀の青金かり鍍金あり  
 力なり俗よふた  
 白銅同鉛とて丹  
 ○鐵の黒金かり鉄同銑鐵  
 あり俗よふた  
 銅鐵あり  
 かね鋪あり日本

